

大学にシンボ



エラ・ヒューストン記念礼拝堂



建学の精神が息づく エラ・ヒューストン記念礼拝堂

キャンパスの中央、センターコートに建つ円筒状の建物。厳かな存在感を放つこの場所が、新しい礼拝堂「エラ・ヒューストン記念礼拝堂」です。金城学院の歴史を語るときに欠かせない、第3代校長エラ・ヒューストン先生の名が冠されました。宗教主事の小室尚子先生は、「ヒューストン先生は学校整備に尽力されただけでなく、祈りの人でもありました。本学の伝統でもある毎朝の礼拝も、先生が整えられました。そうした意味でも祈りの場所にふさわしい名称です」と話します。

礼拝堂に一歩入ると、天井の高い楕円形の空間が広がります。正面に光の十字架を配置し、壁面の12の窓から光が外に向かうようなデザインが印象的です。「卵形の包み込むようなかたちが落ち着くようで心を

静めて礼拝に臨めます。設計当初、窓は凶面上にありませんでした。キリスト教の象徴として12の数字がありますので、窓を12開けてくださいとお願いし、現在の形が実現しました」と小室先生。礎なる神を中心に、学生たちが世の光となって社会へと羽ばたいていくようにとの願いも込められているそうです。また、パイプオルガンも、ヒューストン先生のご意思とともに丘の上から引き継がれました。新たな礼拝堂で以前と変わらない美しい音色を奏でていきます。

礼拝堂にはキリスト教センターが併設されており、すべての学生に開放されています。礼拝堂の横のラウンジは、お弁当を食べたり、学習やクラブ活動にも利用できる学生たちの憩いの場に。ラウンジで練習を行

うハンドベルクワイアの文学部日本語日本文化学科4年生、小笠原侑里さんや現代文化学部国際社会学科4年生の榊原安香音さんは「音の響きがよくなりました」と言います。また「1階なので、練習の準備が楽になりました」とも。さらに同じ文学部英語英米文化学科4年生の中澤美賀さんは「礼拝を身近に感じられるようになりました」とも話します。礼拝堂で練習を行うクワイアの人間科学部現代子ども学科3年生、赤木里名さんは「前に比べて音の響きが豊かになりました。特に上のバルコニーで歌うと、歌声が上から降ってくるようです」と言い、同じく人間科学部現代子ども学科4年生の加藤実咲さんも「新しくなって、私たちの練習も人の目にたくさん触れるようになり認知度が上がったと思いま



パイプオルガン



宗教主事の小室先生



礼拝堂にてハンドベルクワイアの学生

新たな施設を竣工 リックな礼拝堂も誕生

2012年にはじまった教育環境整備、「金城学院キャンパスマスタープラン(KMP21)」。
その第一弾として礼拝堂と新校舎が完成。より快適なキャンパスライフが期待できそうです。

す」と言います。小室先生は、「毎朝の礼拝が主ではありますが、ハンドベルや聖歌隊のコンサートが行われるのも楽しみ」と話します。

金城学院ではすべてのことが礼拝からはじまります。緑に囲まれたキャンパスの中心にあるエラ・ヒューストン記念礼拝堂は、文字通り本学のランドマークとなり、学生たちの心を癒す場となることでしょう。

「N2棟」を新築、 より使いやすくなった教室

専門的な教室を完備し キャンパスライフが充実

KMP21(金城学院キャンパスマスタープラン)は、大学キャンパスの大規模整備計画です。「多様な交流を促す空間創出」「安全で使いやすく、質の高い教育・研究環境の整備」「自然と共生する環境配慮型キャンパスの整備」の3つをコンセプトに2012年から工事が始まり、この春礼拝堂と新校舎の「N2棟」が完成しました。

N2棟には共通講義室をはじめ、さまざまな演習室を備えています。現代子ども学科4年生の清家夕貴さんは、「園児用の小さな机と椅子が用意された子ども教材開発室は、保育の現場さながらで模擬授業に役立ちそう。以前よりピアノを完備した音楽練習室が増え、所属するグリークラブでの練習に大いに利用しています。また日本語日本文化学科1年に在籍する妹が、生け花や茶道



N2棟外観

で和室を使用しているそうです」と話してくれました。

太陽光発電など、自然エネルギーを有効活用している



清家夕貴さん

ほか、トイレや階段などに人感センサーや自動調光制御を設置して省エネにつとめるなど環境にも配慮された新校舎。大学生活をより豊かなものにしてくれそうです。



和室



音楽スタジオ



美術実習室



キーボード教室



教材開発室